

JA石川県青壮年部協議会 ポリシーブック 2026

— JA石川県青壮年部協議会における活動指針・行動目標 —



令和8年4月11日

JA石川県青壮年部協議会

J A 青年組織綱領

我々 J A 青年組織は、日本農業の担い手として J A をよりどころに地域農業の振興を図り、J A 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、J A 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川 5 原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 5 0 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成 1 7 年 3 月 1 0 日制定)。

JA石川県青壮年部協議会ポリシーブック2026

— 人づくり・仲間づくり・組織づくり —

JA石川県青壮年部協議会は、「地域農業を守り、次代へつなぐ青年組織」として、県内各地域の盟友とともに協同の力を発揮し、学習活動や地域貢献活動を展開してきた。

しかし現在、盟友数の減少や高齢化、活動参加率の低下、組織の認知度不足など、青年組織を取り巻く環境は大きく変化している。

このような状況を踏まえ、「人づくり」「仲間づくり」「組織づくり」を軸に、自助・共助・公助の視点を取り入れながら、協同の力による持続可能な組織づくりを進めていく必要がある。

本ポリシーブックは、県青協の理念と基本方針を整理し、今後の組織運営と活動推進の指針として取りまとめたものである。

JA石川県青協ポリシーブック2026改訂 実行委員					
委員長	高本 祐輔	(白山)	委員	東 尚平	(松任)
副委員長	大音師 豊	(小松市)	〃	寺崎 純也	(金沢中央)
副委員長	畑中 健太郎	(松任)	〃	西川 一也	(金沢市)
組織部長	中島 正一	(白山)	〃	竹野 茂樹	(金沢市)
営農農政部長	石本 和也	(加賀)	〃	渡辺 保之	(石川かほく)
地域交流部長	村井 俊一郎	(根上)	〃	竹本 健太郎	(のと)
委員	滝口 和範	(加賀)	事務局長	川本 幸進	
〃	宮本 達也	(小松市)	事務局	玉野 美湖	
〃	浦出 和彦	(能美)			

※課題の項番のアルファベットは、解決策との紐付けを表す

1. 人づくり

【 現状と課題 】

- 青壮年部盟友の高齢化および農家人口の減少に伴い、盟友数が減少し、地域農業や青壮年部の次世代を担う人材の確保が困難となっている。
- 青壮年部の継続・発展のため、地域農業を支えるリーダーの育成が急務である。
- 県下青壮年部において、活動内容や取り組みに差があり、リーダーの育成が十分に進んでいない。

【 解決策 】

I. 自助(自分たちで取り組むこと)

- ・ 県青協が各種研修会の開催や青年大会等への参加を促し、各青壮年部における学習の場を創出する。■■
- ・ 県委員が率先して自らの経験を活かし、地元単組の活動活性化に貢献する。■■■
- ・ 年齢や経験に関わらず学べる環境を整え、人材育成に取り組む。■■■
- ・ 各単組で学びや経験を共有し、地域全体で人材を育てる意識を高める。■
- ・ 「人を育てることが組織を育てる」との認識のもと、持続可能な人づくりを進める。■■■

II. 共助(J Aと共に取り組むこと)

- ・ J Aは地域農業を支える人材の育成のため、青壮年部と共に次世代の人材育成に取り組む。■■■

2. 仲間づくり

【 現状と課題 】

- A 盟友数の減少により、活動の広がりと継続性が低下している。
- B 単組間および地域間の交流機会が少なく、横のつながりが生まれにくい。
- C 活動内容の固定化・マンネリ化により、組織としての一体感が弱まり、青壮年部への参加意欲の低下を招いている。

【 解決策 】

I. 自助(自分たちで取り組むこと)

- ・ 県青協が仲間づくりと学習を目的に、交流会や合同研修を開催する。■A■B■C
- ・ 活動に「楽しさ」と「目的意識」を持たせ、誰もが参加しやすい環境づくりを進める。■A■C
- ・ 単組を超えた仲間づくりの場を創出し、組織の一体感を高める。■A■B■C
- ・ 世代や地域を越えた交流を通じて、新たな刺激と学びを生み出す機会をつくる。■B■C

II. 共助(J A と共に取り組むこと)

- ・ 単組に J A 経営層との意見交換の機会を設け、J A と連携しながら青壮年部の仲間づくりと組織力の向上に取り組む。■A■B■C

3. 組織づくり

【 現状と課題 】

- 県青協への理解を深めるため、積極的なPRが必要である。
- 盟友の減少・高齢化に加え、コロナ禍の影響等による活動参加意識の低下や予算縮小に伴う事業縮小により、県青協事業への参加が困難となっている。
- 県青協の委員会や事業への参加率が低下している。
- 青壮年部活動の意義と役割が、盟友に対して十分に認識されておらず、自主的な参加につながっていない。

【 解決策 】

I. 自助(自分たちで取り組むこと)

- ・ 県青協の活動を積極的に発信し、地域の理解を深め、開かれた組織運営を進める。 **AD**
- ・ 単組の活性化と盟友のスキル向上のため、JA全国青年大会等への参加や「日本農業新聞」「地上」の活用・購読を促す。 **BCD**
- ・ 県委員会等にオンライン会議等を活用し、誰もが参加しやすい環境を整える。 **BC**
- ・ 単組間での情報共有や連携を深める場を設け、組織運営の活性化を促す。 **BCD**
- ・ ポリシーブックを活動計画に反映し、PDCAサイクルにより活動を継続的に見直す。 **ABCD**
- ・ 県青協委員会や事業において「JA青年組織綱領」の唱和を実践し、青壮年部活動の意義と役割の共有を図る。 **D**

【 ポリシーブックとは？ 】

このポリシーブックは、J A 石川県青壮年部協議会の活動指針と行動目標を示したものです。

県青協が抱える課題や疑問について、県青協委員が議論を重ね、解決の方向性を整理しました。

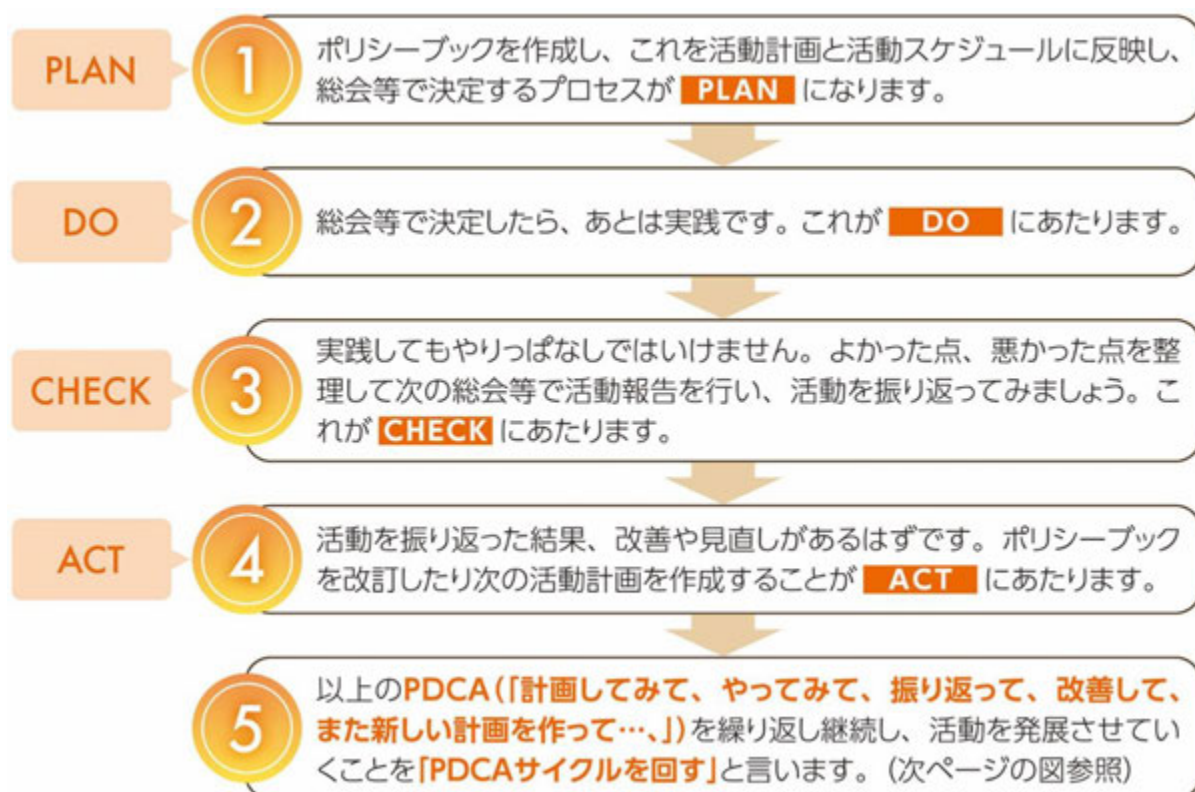
課題の解決にあたっては、盟友自らが主体的に取り組む「自助」、J A と連携して進める「共助」、行政への要望としての「公助」、の三つの視点で整理しています。

このポリシーブックをもとに、「人づくり」「仲間づくり」「組織づくり」を進め、協同の力による持続可能な青年組織づくりを目指します。

【 ポリシーブックの活用 】

ポリシーブックに基づく活動後、振り返りを行い、P D C A サイクルによるポリシーブックの活用に取り組みます。

【 ポリシーブック取り組みの流れ 】



【 ポリシーブック作成・活用の例 】



【 ポリシーブック P D C A サイクルシート 】

P L A N	ポリシーブック	(活動計画に反映する課題と解決策)
	活動計画	(解決策を反映した活動計画の項目)
	5 W 1 H	(だれが)
		(いつ)
		(どこで)
		(なにを)
		(なぜ)
		(どのように)
D O	活動結果	
C H E C K	評価	(達成度：○△×)
	○=活動により PB の課題が解決した △=解決はしていないが、前進している ×=活動が課題解決に結びついていない	(できたことは何か) (不足していたことは何か)
A C T I O N 次年度の PLAN	改善(P B)	(解決策をどう見直すか)
	改善(活動計画)	(見直した解決策をもとに反映した活動計画の項目)



**J A 石川県青壮年部協議会
ポリシーブック 2026**